

全 仏

NO. 211

10 / 50



仏教会の意義(三)

昭和三十年身延での全仏大会の記事を見ると、国内各組織の充実、末端組織寺院の全日仏周知徹底、大衆的新教化策の樹立、仏青・仏婦・社会福祉施設の単位組織増設への推進等が叫ばれているが、二十年後の今日、その幾分かでも前進したものであるだろうか。全一仏教運動とただ口でばかり咒文のように称えている節がありはしないであろうか。

今年の「人類の未来と仏教」シンポジウムでも基調講演をなされた渡辺 格先生から「いかに立派な教えがあっても、それを死蔵しては何にもならない。仏教者の怠慢ではないか」との批判を我々は素直に受けて立っていくべきであろう。それには各宗も宗派エゴを脱して本当によりよく統一組織化された仏教実践運動を展開していくべきである。

(M・T)

写真は箱根で開かれた日本仏教文化会議の第八回シンポジウム
 二、三面参照



勝又俊教大正大教授



渡辺格慶大教授

人類の危機に果たす仏教の役割

シンポジウム「人類の未来と仏教」(第二回)

仏教文化会議ひらく

既報の通り、日本仏教文化会議の第八回シンポジウム『人類の未来と仏教』(第二回)は、さる八月二十五・二十六日の両日、仏教学、自然科学などの諸先生十九名、オブザーバー十一名、主催の全日本仏教会・国際仏教交流センターより二十四名、後援の読売新聞など報道三名の参加で、神奈川県箱根の湖尻富士見荘において開かれた。

両教授が基調講演

第一日目は三浦依文を唱和し、全日本教会の神田寛雄理事長と国際仏教交流センターの岡野輝勝理事長が主催者を代表して挨拶、直ちに基調講演に入り、分子生物学の渡辺格慶大教授が『人類に未来はあるか—分子より精神へ』と題して「分子のほうからみた場合には精神の問題が非常に重要で、現在の自然科学の方向は身心の合一を旨としようというのが現実だと思う。人類の未来に環境問題や人口問題などがおこっているが、それは地球が無限でなく有限な閉鎖されたものであるということ、そこでは淘汰が

おこなわれなければならない。その淘汰がどういう形でおこなわれるかが問題である。科学の発展は自然淘汰の力を弱め身障者や老人などの「マイナス人間」が増加の傾向にある。閉鎖世界において人類が生きてのびるためには人類の自己判断によって新しい世界をつくらなくてはならないが、その方向づけが優者だけ生きのびる世界ではない。しかし現実には優者のみが生き残る方向をめざしているように思う。マイナス人間を含めた人類全部が共存できる新しい世界を創らねばならない。その共存は、方法論である科学の限界を超えた宗教・哲学による高い目標設定がなされるべきであり、そこに宗教者・科学者の協力が実ってこそ、はじめて人工的進化的閉鎖世界での繁栄につながる希望が生まれる。それにもかかわらず人類の滅亡があるとしても、それはそれでよいと覚悟すべきだ」と厳しい現実を把握し、人類危機の状況を明示。

つづいて仏教学の勝又俊教大正大学教授が『人類の未来と仏教の救い』と題し「仏教は本来抽象的な未来をうんぬんするより、いま現在、生きて悩む人間を導く教えであるが、大乘の利他行は仏の側からの本願、衆生の側からの誓願となつて「一切衆生を度せずんばやまじ」の決意となる。これが観念でなく実践されるところに時代を超えた仏教の救いがある」と講演された。

討議は真深義賞氏を司会に、基調講演を軸とし、「ライフ・サイエンスと人間」(渡辺格慶)をふまえて進められた。その中で「心身の合一」、「ライフ・サイエンスをふまえた宗教・哲学の必要」、「遺伝子DNAと阿頼耶識の類似」、「遺伝子組み替えによる軍事兵器への悪用」などの問題点が問われ、渡辺教授は「危機制御の方向が価値観でなく力による可能性が多い。これを回避するために宗教・哲学が必要である。その場合マイナス人間といわれる人をも救える宗教とは何かということである。遺伝子については、DNAの能力をこえた情報過多が今日的な問題であり、実験については厳しい監視が必要である。軍事兵器に組み入れられるならば、たださけるだけでは無知にひとしい。」と答えた。

第二日目は午前九時より午後三時まで討議が行われ、「仏教は生きているが生命科学はどうか」、「不適者生存について」、「人口問題、とくに産児制限について」、「共産主義と仏教との関係」、「仏教の実践論」など多くの問題について質疑応答があり、渡辺教授の「仏教は人類の共存に何をしている、いかに立派

な教えであっても「死蔵」されては
何にもならない、それは仏教者の「怠
慢」ではないか」との批判をふまえ、終
始熱心に討議された。

出席者（順不同・敬称略）

秋重義治（九州大名普教授） 沢瀉久敏
（大阪大名普教授） 勝又俊教（大正大教
授） 佐伯真光（相模工大教授） 佐藤密雄
（仏教大教授） 謝世輝（相模工大教授）
花山勝友（武蔵野女子大教授） 橋本芳英
（福井県立短大教授） 松野純孝（鶴見大
教授） 武藤義一（東大教授） 森竜吉（竜
谷大教授） 若林勲（東大名普教授） 渡辺
格（慶応大教授） 宮本正尊（文化会議々
長） 西義雄（同副議長） 雲井昭善、藤吉
慈海、真深義貴、摩尼清之（運営委員）
【下の写真は参会者一同の記念撮影】

第八回文化会議に出席して

藤 吉 慈 海



今年の日本仏教文化会議は、昨年同様
「人類の未来と仏教」のテーマを追って
さる八月二十五、六両日箱根の富士見荘
で開催された。昨年は台風のため出席で
きなかったが、今年は両日とも参加する
ことができてうれしかった。乞われるま
まに感ずるところを述べてみたいと思
う。

類の未来」というような未来学的な論題
となつて、いささか意外であった。今日
はたしかに人類の危機が叫ばれ、終末論
的な議論も多いが、ともすれば、そのよ
うな議論は積尊が否定されたような戯論
に陥りやすい。「生命科学と仏教」がと
りあげられたときもそうであったが、仏
教文化会議は学者が集まって、戯論をや
っているという批判もあった。したがっ
て輪廻転生等の現代的理解についても、
議論が高揚し、これを夾雑物として排除

すべしという説や、一種の非神話的な
受取り方をすべきではないかという説も
あつて裨益するところが多かつた。

今回のシンポジウムもその点が反省さ
れねばならぬと思う。人類の未来はどう
なるか、世界は永遠に存続するかといふ
ような問題は、いろいろに考えられるが
どうかするとそれらの問題は、仏陀をし
て高貴なる沈黙を守らせたような結果に
なる。そこに求道者の立場は明示されて
いるが、今日では平和の問題や人口問題
や環境汚染の問題等、切実な問題が山積
して、仏教者といえどもこれを無視
することはできない。今回のシンポジウ
ムでも人間のエゴイズムがとりあげられ
仏教者の自覚のなさが指摘されていた。
国家民族のエゴ、階級のエゴ、イデオロ
ギーのエゴ、教団のエゴ等、あらゆるエ
ゴイズムを乗り越えて、全人類の立場に
立った新たな宗教・倫理が確立されねば
ならぬというのである。

人類の誓い

筆者の関係しているFAS協会では一
九五一年四月八日に次のような「人類の
誓い」を誓い合つた。

私たちは、よくおちついて本当の自己
にめざめ、あわれみ深い心をもつた人間
となり、各自の使命に従つてそのもつま
えを生かし、個人や社会の悩みとそのみ
なもとを探り、歴史の進むべきたらしい
方向を見きわめ、人種国家貧富の別なく
みな同胞として手をとりあい、誓つて人
類解放の悲願をなしとげ、真実にして幸
福なる世界を建設しましょう。

そしてこの会では機関誌『FAS』に
続き『ポストモダンズ』を発行し、『禅
の本質と人間の真理』（理想社刊）とい
う合同研究の成果も出版しているが、実
践的にも厳しい修行にはげみ、毎年三回
一週間の別時学道や、毎週一回の平常道
場をもっている。そして最近はそのよう
な宣言をなしている。

ポストモダンズ宣言

- 一、ポストモダンズと自覚
近代の本質的矛盾と現象的ジレンマ
によって崩壊した主体性を、F・A
・S哲学に基づきポストモダンズと
の自覚により建て直す。
- 二、最高主権在人類
宿命的に行きつまった多元的國家エ
ゴイズム体制を、抜本的に超脱して
普遍的な一元的全人類主権を創定す
る。
- 三、全人類共財
あらゆる物質的精神的資材を、國家
独占から解放して、全人類の共財に
する。

「人類の誓い」といふ「ポストモダン
ズ宣言」といふ、そこには、今日の日
本仏教界において、検討すべき問題が含
まれている。将来の日本仏教のあり方を
考えるとき、これらの提言は示唆に富む
ものとして敢て付記していただいた。

来年のシンポジウムにおいては、具体
的なテーマを決定し、将来の仏教者のあ
り方や教団のあり方に裨益するところ多
い論文を期待したいものである。

時事点描

史的唯物論からするはげしい宗教批判が展開されたのは昭和の初頭であった。川内唯彦氏を中心とする唯物的弁証法を信奉する哲学者や、文化人等によって組織された「戦闘的無神論者同盟」が、多様な宗教批判グループの中で、最も徹底した反宗教理論に基く闘争を展開し、しばしば当局の弾圧をうけた。当時、蔵原惟人氏は病弱で、表には出なかつたが、理論的指導者の一人であったと思われる。その蔵原氏（日本共産党常任幹委員）が、今度対宗教キャンペーンの責任者として活発な活動を開始したのだから感慨無量である。

宮本委員長の論文

昭和初頭における反宗教運動には多くのグループがあつてマルクス、エンゲルス、レーニンなどの宗教批判論を基盤として反宗教運動を展開した。従つて当時の宗教界の在り方は批判するが、宗教そのものを肯定した三木清哲学は反宗教グループからは厳しく批判されたことによつても明らかである。

蔵原氏が行つた宗教者との座談会における挨拶、あるいは宮本委員長「文春」十月号で述べている論文によ

れば「宗教に対する科学的社会主義の理論的考察は時と条件を無視した万能の処方箋ではない。その理論的業績は偉大ではあるが、しかし、それを万能薬的処方箋としてドグマ化することはいましめなければならぬ。新しい歴史の中で新しい創造的發展を当然としてゐるのが科学的社会主義理論の特性である」という。即ち現代の歴史的發展段階においては、マルクス主義宗教批判論は止揚されるべきだといふふう

である。従つて労働者、農民をはじめ広範な人民大衆が信仰問題で対立するおろかさを排して、社会の進歩と搾取制度の廃止をめざす闘争に団結すべきだと主張していることは正に戦術といふべきであらう。

教宣活動の自由

の目指す世界観の具現に自由な教宣活動が可能であるかどうか、極めて根本的な疑念が残らざるを得ない。最高段階とはいえないまでも、幾つかの科学的社会主義国家において今日仏国土建設の、あるいは神の国建設の宗教活動が果して自由に活発に展開されているかどうか。われわれはその実情を知りたいと思ふものである。

宗教一般と仏教

なるほど日本共産党の綱領には無神論を承認していないし、党への加入条件の中で信仰に関する理論的な把握も要求してはいない。更に宮本委員長は仏教はパラモンを頂点とする身分制度に反対し、平等を主張して原始共産主義的平等生活を実行したと論じて、仏教への協調の可能性を説いている。極言すれば信教の自由（反宗教宣伝の自由も含む）という原則の上に立つて、

宮本委員長は、共産主義の最高段階における社会で、宗教はどのような存在となるかについて、「社会悪」が排除され、そこから苦惱が生じない段階

マルクスが鋭く科学的に観察し分析して体系づけた理論によつて未来を予言したが、プロレタリアートによる「最終革命」とその後に来る「無階級無国家社会」ということは、長くしいたげられた農民のイメージとして、またプロレタリア革命とその最終的勝利の歴史的必然性といふことは、「神の勝利と究極的必然」といふ古いパターンにたやすく重なるのを覚えるのである。

いうならば信仰大衆への平和攻勢と見るべきではないのか。レーニンの宗教政策は、信仰者もまた地上の民の一人

にあつても、人間社会である限り、悦びだけではなく、病氣、恋愛、結婚、家庭、自己の資質、才能についての希望と現実、人間の寿命、その他人間的苦惱がなくなるものでないことは明かであり、その中で人間精神の充実に

この意味では、ゾロアスター教、カソリック、プロテスタント、回教と一連の系統は、パターンを同じくするものといえないことはないが、ゾロアスター思想と全く異つた未来思想として築き上げられた仏教に対して、宮本委員長の説く宗教一般に対する見解が当てはまるかどうか。双方の側の研究が今後極めて重要な問題であらう。

共産党の宗教キャンペーンについて

政策を推進しよう

「仏教と人口問題」の研究会

中間報告

昨年の仏教徒代表者会議で、人口問題

に対して仏教徒はどのような態度で臨むべきかを討議したが、判然とした立場の表明にまでいたらず、決議の中で「われわれはあくまで生命の尊厳を守りつつ、社会的立場に立って人口問題の解決に努力する」という抽象的な表現に終わらざるをえなかった。ただこの問題は極めて重要なため、全仏内に研究会を設け継続審議することになり、提案者北川有光氏を含め、真深義貴、金岡秀友、花山勝友、佐伯真光の各氏によって研究討議を重ねている。

世界の人口増加はますます、人類が独自の進化を遂げはじめたころの人口は十万人どまりといわれているが、三千年前には百万人、一万五千年には三百万人、紀元一世紀には三億人になっていたと推定されている。一九七四年発表の国連年次統計によれば、人口は三十七億八千万人で、年率二・一九%ずつ増加しているから、三十五年後には七十億に増加するとの推定を下している。しかも現在人口の七〇%は開発途上国が占めていて餓死等の死亡は年間二百六十万人を超えているという。また日本の人口は現在一億九百万、三十年後には三千万人の増とされている。

このような爆発的人口増に直面して、

今やその対策は国際政治の舞台に登場し昨年は人口年として種々の対策が討議された。世界各国はそれぞれ人口抑止の政策を打出し、アジア各国でも人口が集中しているだけに真剣に取り組んでいる。シンカポールは三人以上の子供を産んだ場合「反社会的行為」として公営住宅入居優先順位を下げたり、出産費を高くしたり、出産休暇を短縮するなど荒療治をしている。しかしあらゆる対策も現状では絶望的である。それは各国、各民族の歴史、習慣、価値観など、文化的要素がからみあっているからである。

そうした中で宗教も相当なウエートで人口抑止のブレーキとなっていることも事実である。アメリカではインドネシアにIUDを大量に送って産児制限を援助しようとしたが、回教徒婦人は夫以外の男性に肌をみせない信条から断固として医師による器具のそう入を拒否しているのである。カソリックは一九六六年に「人間の生命宣言」を発表して、人工中絶は医学的理由により禁止、避妊用具、薬品使用も一切禁止、ただ禁欲による受胎調節だけを認めている。

最近になって宗教界も人口問題を重視しはじめてきた。カソリックは二千年来

禁欲法以外を認めないが、国によっては特にカソリックのフィリピンでは数年前から国を挙げて家族計画に取り組んでいる。さらにプロテスタントの立場はかなり進歩的であって、夫婦合意のうえで夫婦と新しい生命のいずれにも害がなければ、中絶も医学的理由ならこれを認めている。そして根本的理念としてプロテスタントは「人口政策が真に人間にふさわしい社会開発とマッチしているかどうかそして手段が家族の尊厳と権利を侵害するものにならないかどうかを問題とし、単に社会的、経済的条件を変更する目的だけで、人口政策に焦点を合わすことに反対する」という原則をたてている。また一夫多妻を認めるイスラム教の国々でも、最近では小家族主義を指向し、かつ女性解放のさざしをみせている。

さて、そこで仏教はどのような態度をもっているかが問題となる訳であるが、「殺生戒」を持っている仏教としては既に生命として芽生えているものに対する殺生、すなわち墮胎や人工妊娠中絶は、これを許さないことだけは仏教全体の基本的態度であろう。しかし避妊を含む人口問題一般に対する関心が高いとは決して言えない。昨年の仏教徒代表者会議でこれを本格的に取り上げたのがほとんど最初であるといってもよいだけに、一般社会から仏教徒の統一見解の発表が期待されながらも、いまだに慎重審議の域を脱してはいない。

研究会において討議された中間報告としては「人口の爆発的増加は人類の危機

お寺に仏旗をかかげよう

大 たて 150C—よこ 247C ¥13,000円 小 70C—100C ¥ 3,000円
中 90C— 135C ¥ 5,000円 手旗 35C—50C ¥ 1,500円

別染製 堅牢 (全日本仏教会制定意匠登録済)

各地区仏教会でまとめて御注文の際は価格の御相談に応じます。

財団法人 全日本仏教会

〒111 東京都台東区西浅草1-5-5

電話03・843・6341~3

法輪バツチ

全仏輪袈裟

こげ茶、法輪マーク付き
¥一、五〇〇円
(今年中一割引)

径一cm、ネジ式
¥一、〇〇〇円

を招く要因となりつつあるという前提条件に立つ場合、やはり教義主義は守りつつも、社会派的立場に立たざるを得ない。即ち墮胎、人工中絶は禁止するが、禁欲を含め、合理的かつ慎重な方法で行なわれる避妊はこれを認めるということである。但し優勝劣敗の思想を貫く社会

制度を改革して、不適者生存の福祉社会の建設努力が同時に払われなければならぬことを強く主張し、他の人類の危機克服の諸対策と相俟って人口政策を押し進めるべきである」との見解に達したのである。(真深義貫)

バンダラ孤児への救援寄金

9月18日現在

総計

- 七百九十五万六千六百六十六円
- 一般協力者よりの寄金 百四十三万六千九十六円
- 全仏加盟団体および関係寺院団体よりの寄金 六百五十二万五千七百七十円

右のうち六月十九日より九月十八日まで
の内訳
六十三万四千二百円

三宗派が新加盟

真言宗須磨寺派

- 宗務庁 神戸市須磨区須磨寺4の6の8
- 管長 小池真禪
- 宗務長 小池義人
- 大本山 福祥寺
- 包括寺院数 十二カ寺

本山修験宗

- 本庁 京都市左京区聖護院中町15

埼玉県佛教会(第三回、合計百十四万九千四百二十二円)

九万四千三百九十八円

大正寺(ハワイ)

七万円

京都府仏教会

五万円

法華宗本門流、知行院子供会(東京)

八千二百四十円

地福寺(埼玉、第四回、合計一万五千九百九十六円)

千九百九十六円

〓 仏事務局変更 〓

岩手県仏教会連盟 盛岡市北山一の十三の二十五・教浄寺内

秋田県仏教会連合会 仙北郡角館町雲然・竜巖寺内

山梨県仏教会 甲府市城東一の八の四・教安寺内

青森県仏教会 弘前市大字西茂森一の七の一・清安寺内

島根県仏教会 浜田市相生町・善福寺内

大谷光照門主が講演

TOU 国連本部会議場で

第五回世界宗教頂上会議(TOU)が十月十九日よりニューヨークのセント・ジョン大教会および国連本部会議場において「人間の精神は一つである」とのテーマで開催される。今回は民間団体として初めて国連本部会議場を使用するということが注目をあつめているが、各宗教の中で仏教代表としては大谷光照門主(浄土真宗本願寺派)が講演する。

北京の中国仏教協

会から書簡届く

東京ブテイストクラブ(川島宏之代表)会員である安田圭司氏が、八月上旬に東京青年会議所代表として、中華人民共和国を訪問したさいに、全仏では卓信安会長名による親書を楳村初中国仏教協会責任者あてに託したところ、このほど楳村初氏より返書が送られてきた。書簡

には日中両国の文化交流をなお一層深い友好増進を永久ならしめたいとある。

真言宗智山派 芙蓉管長の晋山式

真言宗智山派の総本山智積院において芙蓉良順管長の晋山式が、同宗派内外多数参列のもと盛大に執行され、全仏からは桜井事務総長が出席し祝詞をのべた。

詠歌連盟の奉詠・舞大会

九月九日午前九時より、東京・文京公会堂において東日本詠歌連盟主催の第二十一回奉詠・舞大会が開かれた。これは同連盟が毎年、世界平和祈願のためにおこなうもので、盛況であった。全仏より滝文化部長が出席し挨拶をした。

昭和51年版

「全仏手帳」

申し込み受け付け中

全仏総務局では、左記要領にて「全仏手帳」を発行致します。部数に限りがございますので、御注文はお早めに。

内容 三冊依文、四弘誓願、宗門聖日、加盟団体役員住所録、

忌日早見表、その他

サイズ 9×14cm(昨年よりやや大)

定価 四〇〇円(送料実費)

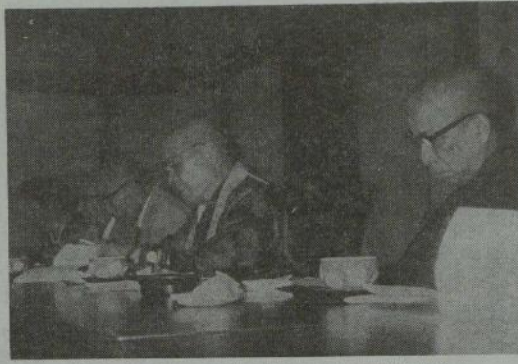
出来日 十一月初旬

申込先 東京都台東区西浅草一―五

一五(千一―) 全仏総務局宛

全 仏 常務理事会ひらく

四つの議案を審議、承認



東京本願寺記念館で開かれた常務理事会

事務局より一月末日、二月末日改選案が出されたが、常務理事会においては、十二月末日、一月末日のいずれかの線で

事務局で検討のうえ、次回の理事会に正式にかけることとなった。この議案審議にともない会長、副会長、理事長のまわりもち制度についても話しあわれた。
議案第三号「職員等旅費規定変更について」
時代にそぐわない用語の訂正、および旅費規定の一部改訂案がだされ、承認された。

議案第四号「人事異動について」
左記のごとく人事異動があり、承認された。
理事 大友 謙(大派) 5月15日付・新
" 古賀制二(〃) " " 退
理事 藤音晃祐(本派) 7月28日付・新
" 下山弘義(〃) " " 退
関西事務局

事務総長 大友 謙(大派) 5月15日新
" 古賀制二(〃) " " 退
組織部長 曾田幸有(浄土) 8月25日新
" 白幡憲佑(〃) " " 退
主 事 三上大成(本派) 8月19日新
" 真木哲英(〃) " " 退

第一回ブダガヤ結集 日本代表団の申込み

締切り迫る 十月二十日です

釈尊成道の聖地ブダガヤに日本寺が建立されて三年目を迎える。この機に「第一回ブダガヤ結集」と銘うって国際仏教徒の大集會が企画され、本会加盟の国際仏教興隆協会と協賛のもと、日本仏教代表団を派遣することになっておりますがその申し込み締め切り日が十月二十日と迫っております。

「第一回ブダガヤ結集」に参加し、釈尊の四大仏跡である誕生、成道、初転法輪、涅槃の聖地を巡拝いたしますので、広く一般仏教徒のご参加を切望いたします。是非ご参加下さい。

募集要項

一、日程 東京―カルカッタ―カトマンズ―パトナー―ナランダ大学跡―ラ

ジギール―ブダガヤ(成道)―第一回結集―ベナレス―サルナート(初転法輪)―クシナガラ(涅槃)―ルンビニ(降誕)―バルランプルー―祇園精舎―アグラ―デリー―東京

一、参加費用 四十万円(一名)
一、申し込み 全日本仏教会国際部宛(申し込み金五万円を添えて提出)
一、締切 十月二十日まで

※ご不明な点は左記へお問合せ下さい
全仏国際部(電〇三三八四三―六三
四一―三三)
千代田ラベル(電〇三―四〇七一
三六―二二)

主催 全日本仏教会
協賛 国際仏教興隆協会

第二十三回全日本仏教徒会議兵庫大会の準備、進行の状況が報告された。

報告事項2「靖国問題について」
慰霊表敬法案以後の事情などについて報告された。

報告事項3「インド日本寺結集について」
十二月七日〜八日に行なわれる第一回ブダガヤ結集に関する報告とそれにとりなう仏跡巡拝の説明がなされ、智山派、仏教保育連盟なども参拝団を送ると報告がなされた。

報告事項4「私立学校法案等の一部を改正する法律施行対策について」
時局対策問題として委員会が開かれ検討していると報告された。
出席者(順不同敬称略)
神田寛雄・江西寛堂・稲岡寛順・野村

全第3種郵便物認可

仏可

全日本仏教会常務理事会は九月十九日午後一時より東京本願寺記念館において開かれ、神田寛雄理事長の挨拶のあと、議事録署名委員に江西寛堂、貝山宣泰両師を選出し、各議案について審議した。
議案第一号「全仏新加盟団体申請承認について」
真言宗須磨寺派、真言宗中山寺派、本山修験宗よりの加盟申請について審議、全員一致をもって加盟を承認した。(三宗派の概要は別掲参照)
議案第二号「全仏役員改選期について

宗春・別所弘因・木村光顕・貝山宣泰・宮部幸磨・山本杉

(委任状提出) 田辺哲生・渡部公允・嶺

藤亮・栗本俊道・浅井堅教・大石好文・神原玄祐・近藤本昇

◇掲◇示◇板◇

●曹洞宗永平寺では十月九日(一時)佐藤泰舜禪師本葬、十月十日(十時)山田霊林禪師晋山式の慶弔会が修行される。

●長岡市仏教会では十月十五日、花祭執行五十周年と檀信徒会結成五周年の記念として「第一回長岡市仏教徒大会」を開催する。

●長野県仏教会・上小仏教会では「県仏組織の拡充強化をはかり地域社会の進展につくそう」のテーマのもと第二十一回長野県仏教徒会議上小大会を開く。

事務総局録事(9月)

- 二日 局内会議
- 五日 人口問題研究会
- 六日 議案審査委員会
- 八日 宣言文決議文起草委員会
- 八日 兵庫大会打合せ(兵庫)
- 八日 日宗連理事会
- 九日 東日本詠歌連盟大会出席
- 十六日 兵庫大会実行委員会(全仏)
- 十八日 智山派管長晋山式出席
- 十九日 常務理事会
- 二十六日 兵庫大会局内打合せ

昭和五十年十月一日発行
十月号 第二一一一号

WF B創立25周年記念
世界仏教徒会議 第11回大会 参加者募集

WF B(世界仏教徒連盟)は1950年にスリランカ国で創立し、ここに25周年を迎えました。この間に日本をはじめタイ、ビルマなどアジアの諸国で大会が開催され、各国仏教徒相互の交流に多大の貢献をおさめました。今回第11回大会がタイ・バンコク市で開かれるにあたり、多数の日本仏教徒が出席しよりよき成果を挙げられますよう、下記のスリランカ訪問団とボロブドール訪問団という二大ツアーを企画いたしましたので、何卒ご参加下さいませようご案内いたします。

—財団法人 全日本仏教会—

スリランカ訪問団

実施時期 昭和51年2月19日~27日 (8泊9日)
参加費用 330,000円(予定)
申込締切 昭和50年12月31日 (申込金3万円)

—旅行日程—

(2月19日) 東京発9:40 日航465便—バンコク着19:10—(20日) WF B大会開会式出席—(21日) バンコク市内見学—(22日) 自由行動—(23日) コロンボ—ネゴンボ—アヌラダプラ—ポロナルワ視察—(24日) ポロナルワ—シギリヤ—キャンデイ視察—(25日) キャンデイ—植物園—コロンボ—(26日) 午前自由行動—シンガポール—(27日) シンガポール発10:40 日航712便—東京着20:25

●大阪からも塔乗出来ます

取扱旅行会社
運輸大臣登録1231号

株式会社 イースタン・ツーリスト

大阪市東区博労町2の25
御堂筋ナンバ神社西口(田村ビル)
電話 大阪 251-8557~9

ボロブドール・バリ訪問団

実施時期 昭和51年2月19日~27日 (8泊9日)
参加費用 350,000円(予定)
申込締切 昭和50年12月31日 (申込金3万円)

—旅行日程—

(2月19日) 東京発11:10 日航465便—バンコク着17:30—(20日) WF B大会開会式出席—(21日) 市内視察—(22日) ジャカルタ—(23日) ジョクジャカルタ—ボロブドール視察—(24日) デンバーサル—バリ島観光—(25日) バリ島観光—(26日) ジャカルタ經由香港—(27日) 香港発15:15 日航62便—東京着19:50

取扱旅行会社
運輸大臣登録一般第154号

株式会社 子代田トラベル

東京都港区南青山5丁目6番20号(千成ビル)
電話 407-3612(代表)
400-5100
郵便番号 107

●詳細については全日本仏教会国際部にお問い合わせ下さい。全日本仏教会/台東区西浅草1の5の5(東京本願寺内) 電話 03(843)6341~3

発行人 清松胤井徹大昭

発行所 財団法人

全日本仏教会

東京都台東区西浅草一ノ五ノ五(東京本願寺内)
電話 〇三(八四三)六三〇四一〜三